



本派本願寺羅府別院 輪番法話



輪番 ウィリアム ブリオネス

花祭り

臨月近く、摩耶夫人は国の習慣に従って生家に帰ろうとし、その途中ルンビニー園に休息した。折から春の陽はうららかに、アショカの花はうるわしく咲きにおつていた。妃は右手を上げてその枝を手折ろうとし、そのせつなに王子を生んだ。天地は喜びの声をあげて母と子を祝福した。

『仏教聖典』（仏教伝道協会）より

今年のロサンゼルス仏教連合会の花まつり法要は四月九日(日)にこの別院を会場としてお勤めされます。リトル東京に位置するロサンゼルス仏教連合会は東本願寺、浄土宗、高野山真言宗、ロングビーチ仏教会、日蓮宗、西本願寺、洗心寺、曹洞宗禅宗寺の六宗派七ヶ寺から成る仏教団体です。儀式作法や修行形態などにおいて様々な違いをもつ各宗派の僧侶が一同に会し、お釈迦様の誕生をお祝いするこの花まつりを大切にお勤めしてき

ました。お釈迦様の誕生譚によると、摩耶夫人は白象が右脇から胎内に入る夢を見て懐妊したと言われます。臨月が近づくと当時の慣習に従って生家に戻って出産することになり、その帰省の旅の途中ルンビニー園に休息のために立ち寄りました。右手を伸ばして花の咲

L.A. Hompa Hongwanji Buddhist Temple 815 E. First Street Los Angeles, CA 90012 Tel: (213)680-9130 Fax: (213)680-2210 E-mail: info@NishiHongwanji-la.org Website: www.NishiHongwanji-la.org

羅府別院理事長より



理事長 田端 パメラ

た枝と手折ろうとした時にのちにお釈迦さまとなるゴータマ・シッダールタがお生まれになりました。生まれればかりのシッダールタは立ち上がり、七歩歩いて「天上天下唯我独尊」と高らかに宣言されました。天からは甘露の雨が降り注ぎ、シッダールタの体を清めてくれました。

もちろん生まれたばかりの赤ちゃんが歩くはずも、ましてや喋るはずもないことは知っています。ですからこのお話に対して「この話は実際に起こったことなのか？」と議論することは無意味です。ここで考えるべきことは「この話が私たちに伝えたいことはなんなのか？」ということなのです。

当時は人間が輪廻する世界として「六道(地獄、餓鬼、畜生、阿修羅、人、天)」という世界観が信じられていました。生まれたばかりのお釈迦さまが七歩歩いたということは、この六道の迷いの世界を超えて、真実の世界に生きる人となる、ということを表しているのです。そして私たちもまたその真実に生きる存在である、ということをお教へてくださっているのです。

全ての赤ちゃんと同じくシッダールタもひとりの人間として生を受けました。彼の誕生にまつわる伝承は、一人の人間が生を受けてこの世に生まれることがいかに稀で素晴らしいことかというのを私たちに気づかせてくれます。その事実が気づいた時、「天上天下唯我独尊」という言葉はひとりひとりの命の尊さを表す言葉として響いてくるのではないのでしょうか。

(四面へ)

ページ案内

- 一頁 総合
二頁 この話ご存じ
三頁 法話・コラム
四頁 弔意感謝録

2月に入り、ようやくパンデミック前に近い状態で物事が進んでいきます。しかし、この頃は時の進みがことさら速く感じるようになってきました。それは単に忙しくなったからでしょうか。それとも、私が年齢を重ねたからなのでしょう。

3月4日は西別院のサーフ&ターフ・ファンドレイザーです。皆様のご支援に心から感謝いたしております。募財を通じて集まった資金は、寺院の維持管理費へと充てられます。昨今の物価上昇の圧力は、家庭の家計簿と同様に寺院の財政をも圧迫し、実質的な歳入は過去と同じかそれ以下の水準となりました。今回のサーフ&ターフで提供されるメニューは一部値上がりしております。値段を上げるのは私たちがとっては苦渋の決断でした。ですが、元の仕入れ値が高騰してしまっており、募財が経費充当の役割を果たすに当たり、今回の値段設定に至ったという経緯があります。この逆境下においてもイベントを通じて、西本願寺の護持発展に尽くして下さる皆様の心意気には、感謝の念に堪えません。

また、仏教婦人会(BWA)では3月におそらく最後の開催となるオンライン・オークションを主催します。このオークションの目的は、メインキッチンの冷蔵庫を新しいものに取り換えることです。前回のオークションで得られた売り上げは、会館キッチン改修に使われることが決定しています。ジュニー・オビさんのリーダーシップのもと、BWAと運営に携わる方々に感謝いたします。

ちなみに、会館キッチンの最初の改修はハリウッド仏教会からの寄付で賄われました。その時はカウンターが増

築されました。これらの改修は、計画から完遂に至るまでに長い時間と労力が必要となります。そのような苦勞を買って出て、資金集めから改修までしてくださるこれらのグループにとっても感謝しております。

3月には寺院の敷地を囲う新しいフェンスが設置される予定です。西セクターの子供たちやスタッフ、参拝者やボランティアの安全を確保する為、現代の基準に見合ったフェンスが建てられます。セキュリティの強化に伴い、西別院への訪問の折にはご不便をお掛けする事になるかもしれません。しかし、これはリトル東京周辺の治安悪化に伴う必要な措置であり、訪問する全ての人の安全を確保するためのフェンスであります。皆様からのご理解とご協力を賜りますようよろしくお願い申し上げます。

最近の別院の写真

1月29日、今年の西別院をけん引するグループの代表者たちの就任式が行われました。輪番から名前を呼ばれた各グループの代表は、阿弥陀様に香をくべて壇上にあがり、宣誓文を輪番に続いて復唱しました。



主任式の後、別院主催の新年会が会館で催されました。昼食は、西別院婦人会の方々が早朝から準備をした料理が振舞われ、BANDユニットが演奏を披露しました。



【三月・四月のご案内】

募財サーフ&ターフ食会(於 会館) 三月四日(土) 午後四〜七時

永代経祥月法要 (於 ハイブリッド) 三月十二日(日) 午前十時

春季彼岸セミナー (於 ハイブリッド) 三月十八日(土) 午前十時(日本語) 午後一時(英語)

御講師 宮地 信雄 師 [名誉開教使]

春季彼岸会 (於 ハイブリッド) 三月十九日(日) 午前十時

御講師 \*前セミナーに同じ

蓮如忌(於 ハイブリッド) 三月二十六日(日) 午前十時

慶讃法要特別セミナー 四月一日(土) 未定

御講師 三瓶 悦子 師 [サンノゼ仏教会] 古本 竜太 師 [洗心仏教会]

親鸞聖人御誕生850年・立教開宗800年慶讃法要 四月二日(日) 午前十時

御講師 三瓶 悦子 師 [サンノゼ仏教会]

ロサンゼルス仏連合同花祭り (於 西別院) 四月九日(日) 午前十時

永代経祥月法要 (於 ハイブリッド) 四月九日(日) 午後一時

日曜礼拝 (於 ハイブリッド) 毎週日曜日 午前十時

本派本願寺羅府別院

【この話ご存知でしたか】

ハートマウンテンと西本願寺

増山 栄子  
伊藤千鶴子

(情報/執筆) しのはら ゆたか、井上 薫

第二次世界大戦は1940年12月1日に始まった。

即座にEBに摘発されたのは日本生まれの別院の開教使でした。香 おだま くにあの父 輪番 香。開教使、桑月 文方、沖田 せいびの父 沖田 美義、リナ 沖田、清水の祖父、ダスティン、ジョーディン 清水の曾祖父。早島 大徹、我孫子 義考、前輪番 我孫子 洋の父。前原 晃朗、山本 義弘、大野 静哲。

1942年2月19日「追悼の日」にフランクリンD. ルーズベルト大統領が発行した大統領令第3066号は、アメリカ市民を含むすべての日本人を西海岸から移転施設に移住させました。

1942年3月30日にサンフランシスコプレスレディオの「ゴデウィット軍司令官による公布第9号」はすべての外国人日本人の行動に関する適用規制です。居住地からは半径5マイル以外にすることはできません西部



写真上：毛利開教使は検挙されなかった。逮捕状に「もり」は記載されていたが、「もうり」は記載されていなかった。毛利令知開教使、サンノゼのにしうら兄弟が建造したハートマウンテン仏教会仏壇、小本堂はしのはら ゆたかのデザイン。

防衛司令部と第4軍戦時下の民事統制行政はロサンゼルス日本人街区に住むすべての日系人に移転手順を指示しました。集合場所の一つは、現在の全米日系人博物館の向かい、119 北セントラルの別院前でした。

1942年5月9日、2人のメンバーからなる西本願寺の家族 共18390は、アルケディア(サンタアナニタ競馬場)のサンタアナニタ集合施設に向けて出発しました。↓ ニュートン いしうら開教使(ハワイ生

れ)、毛利 令知\*家族、香 静海夫人家族、我孫子夫人家族(開教使 我孫子 義考夫人)、大野夫人家族、早島 大徹夫人、キキもと夫人家族、かわもとさん家族、またさきさん家族、しのはら ゆたか、せらただよし、せら つとむ、ひらの きみこ(しおた)夫人、別院YBA行徳会のメンバー【帰米米国生まれ、教育を日本で受け米国に帰還した日系人】

このグループは、1942年9月9日に、サンタアナニタ集合施設から、ワイオミング州ハートマウンテンのハートマウンテン移転センターに移送されました。仏教寺院は、1942年10月に毛利開教使によって棟30の娯楽室に設立されました。ハートマウンテン佛教団(仏教本部)は、1942年11月29日、棟 17に設立されました。

毛利開教使の創立されたお寺は、毛利開教使を主開教使として西本願寺として再建され、入仏慶讃法要記念が4月18日1943年に執り行われました。

1943年9月、毛利開教使としのはら ゆたか「日曜学校教育長」がトゥールレイク移転センターに移動。しばた てっしん開教使は10月にトゥールレイク集合施設から到着し、西本願寺仏教寺院を率いました。\*家族共18390は移住目的で編成されロスアンゼルス別院のグループと、開戦時に強制収容所に連行された開教使の妻と子供たちが一緒にいることができました。

ハートマウンテンでは、ロサンゼルス別院の指導者の多くが、サンノゼとヤキマの仏教徒を包括した西本願寺仏教寺院を設立することを決定しました。新しい組織の下日曜学校の出席者は著しく増加しました。

かわの しげいち氏は、お寺の理事長。毛利 令知が初代開教使。しばた てっしん開教使が二代目。クリスタルシティ(テキサス州)からハートマウンテンに戻った輪番 香 静海が三代目の開教使だったと思います。1944年8月、西本願寺では、アメリカ陸軍に入隊した日曜学校教師井上薫氏の送別会を行いました。

【追記】

・ リンダ いながきに30PK DVD ディスクの寄付に感謝します。念珠、門徒式章、その他の記念品の匿名の寄付。古いモデルのオープンリール テーププレーヤーがあるのですが、テープを再生するにはそれに対応するアンプが必要です。作動するものをお持ちの場合は、西の記録室と共有(または寄付)頂けますか。

・ 以下のアイテムが見つかりませんでした。探しています。↓1943年、ニューメキシコ州サンタフェ、司法省移転場所、西本願寺の開教使と統率者



写真4：1942年 西本願寺 ファーストとセントラル 現在の全米日系人博物館の向い側 119 北セントラルの別院前



写真上：4月18日1943年 西本願寺入仏慶讃法要記念 ハートマウンテン ワイオミング州  
写真右：ハートマウンテン西本願寺教会、日曜学校教師、1943年  
列1: x, にいい よこた しずこ, しんぐう こうの まさこ, x, x, 毛利開教使, しのはら ゆか, x, x, おくもと さちこ, x/列2: x, もりおか なめかわ かおる(?), おきた夫人(?), x, x, まつもと夫人, 香夫人, x, x, x, x/列3: ミツチかくうち みやさ, x, x, x, むらかみ ふじひろ めいこ, x, x, x, x, 井上薫/列4: x, x, x, x, x, x/列5: x, x, x, x, x, x, x, x, ゆげいさお



(一面続き) 私たち自身の誕生を振り返ってみますと、いかに生まれることが有り難いことであるかに気づきます。私たちは両親の元に生まれましたが、その両親にもそれぞれ両親がいて、その祖父父母の存在がなければ私たちは生まれることはできません。さらに祖父父母にもそれぞれ両親がいます。そのように考えていくと私の誕生に関わる人の数はどんどん増えていきます。十代遡るとその数は一〇二四人、二十五代遡るとなんと三千三百五十五万四千四百三十二人という途方も無い数字になるのです。この中のたとえ一人でも欠ければ、私は誕生してないということになります。比喩が必要のないただ一つの大切な命を私たちは生きているのです。

世界中の仏教徒にとってお釈迦さまの誕生は大切な日です。一人の人間としてこの世に誕生した男の子はやがて私たちの誰もが直面する問題と正面から向き合い、真理に目覚め仏となるのです。

お釈迦さまは目覚めた真理を一人で楽しむことをよしとせず、それができるだけ多くの人に伝えることを生涯のお仕事とされました。そのおかげで時代や場所を超えて私たちもまた真理の教えを聞くことができるのです。

花まつりを通して、お釈迦様に深く感謝し、お釈迦様が開いてくださった真実―諸行無常と縁起の教え―に目を開き、日常生活の中で確かめていきたいと思えます。

花まつりは大切な仏縁であります。四月九日(日)午前十時より西別院にて法要をお勤めします。浄土宗の田中孝道開教使のご法話を聴聞いたします。法要は対面とオンラインのハイブリッド形式にて勤められます。

皆さまのご参拝を心よりお待ちしております。

南無阿弥陀仏

## 集まれ!! お買い物大好きな人!

西別院仏教婦人会では、最後となるサイレント・オークションの開催を準備中です。今回のオークション期間は3月13日～3月26日の午後5時までとなります。商品の引け私日は毎月1日と2日が指定されています。

オークションを通じての収益は、主に老朽化したメインキッチン業務用冷蔵庫の買い替えに使われます。この冷蔵庫は、行事などで頻繁に使われており、別院の各グループや西センターが日常的に食品の保存やイベント用の食品を保管するのに利用しています。他にも、お寺の施設の修繕費に充てられる予定です。

ご質問や不明な点がございましたら、西婦人会までお問い合わせください。みなさまのご参加を心待ちにしております。

## ウィンターパシフィックセミナー開催

1月28日、今年のウィンターパシフィックセミナーが別院で行われた。同イベントは実に三年ぶりの開催となった。今となっては各種行事にZoomを用いる事は普通になっているが、パシフィックセミナーでZoomを取り入れたのは今回が初となる。当日はオンラインを含め、およそ百名の人々がイベントに参加し、中にはオランダなどの国外からの参加者もあった。

午前6時過ぎにプリオネス輪番が導師を勤め重警備を続けた後、原田総長が参加者の方々に向けて歓迎の挨拶を述べられた。

今年のテーマは、"Hope from Shinan's Perspective"。日本語の部は大谷大学元学長の木越康先生がご登壇をされて、WVA高田先生が司会を務めた。木越先生は、2011年に発生した東日本大震災の被災地に赴いた経験から、浄土真宗とボランティアというテーマでおよそ二時間以上に渡ってお話をされた。従来、ボランティアを行うことは、親鸞の他力の教えに反する自力ではないかという議論が繰り返されてきたが、今回の講演では必ずしもボランティアが自力になる訳ではないという点が力説された。英語の部では、プリティッシュユニオンピア大学のジェシカ・メイ生がZoomで登壇し、"Hope, Courage, and Shinan"というテーマで講演を行った。司会は、RSの松本先生が務めた。

講演後は会館で昼食会が行われ、ゲストの木越先生を交えた交流会は盛況であった。



## 「法味楽」味わう×楽しむ仏教

「新しい「領解文」について」

今年も報恩講法要が動きました。今年の報恩講は例年とは一味違い、最終日の最後の法要の席(ご満座)で、ご門主様が新しい領解文(浄土真宗のみ教え)を発表する発布式が執り行われました。

今一度、領解文についておさらいをさせて頂きましょう。領解文は本願寺の第八代目のご門主でありました蓮如上人が、当時の一般の人々にも真宗の教義が理解できるようにとお作りなされたごく短い文章を指します。お浄土への往生の正因は信心であり、その後のお念仏は感謝のお念仏であるというご法義の基本と、この教えが伝承されてきた伝統を示し、念仏者としての指針を明らかにされております。

上人が平易な言葉で編み出した領解文は、山科本願寺の時代から現代に至るまで読み継がれてきた大切なご文であり、近代以降は音楽のついた恩徳讃がより好まれるようになり、最近では声に出して領解文を読む機会が減ってきています。

この度発布されました新しい「領解文」と元の領解文とを読み比べてみました。すると、古い言葉から新しい言葉に移っていく変遷の間から領解文の読み味をさらに深める要素があることに気が付きました。

例えば、新領解文の一行目は「南無阿弥陀仏」から始まります。こちらはオリジナルの「もろもろの雑行雑修自力のころをふりすてて」に対応する部分ですが、お念仏のはたらきが他力であり、そこに帰命する様が元の文章と比較することにより鮮明に浮き出てきます。

次の「われらが今度の一大事の後生、御たすけ候へとのみまうして候ふ」は、「へわれにまかせよ。そのまま救う」の、弥陀の呼び声。私の煩惱と仏のさとりは、本来一つゆえに当たると思いますが、さとりと見れば、煩惱とさとりとに境界はありません。つまり私の苦しみは阿弥陀様の苦しみであり、私の苦しみは阿弥陀様におさめ取らることで一味になっていくという事です。

最後の段落で縁起によって、私たちの喜びや悲しみを周りの人と一緒に分かち合うという仏教者としての姿勢と、自分の傲りや嫉妬心を恥じる心を持ち、いよいよお念仏に救われていく身としての自覚が促されています。

新しい「領解文」はまだ馴染みが浅いかもかもしれません。しかし、これを機会に新しい「領解文」とこれまで親しんできた領解文とを読み比べてみて、お念仏の味わいをさらに深めてみてはいかがでしょうか。この戸惑いもまた、ご本願と遇うご縁となりましょう。合掌

執筆: 駐在開教使 村上響

本願寺新報 hongwanji journal

1月16日(月曜日)

毎月1日・10日・20日発行

発行所 本願寺新報社  
 京都府下区西園(蓮如堂) 浄土真宗本願寺(西本願寺) 本願寺出版社  
 〒600-8501  
 電話 075(371)4171(FC) / FAX075(341)7753

新しい「領解文」示される  
 ご門主がご満座に「ご消息」で

号外

ご門主は1月16日、御正報恩講法要ご満座に於いて御影堂で「ご消息」を発表され、み教えの肝要が広く、また次の世代に伝わることを願われて、新しい「領解文」(浄土真宗のみ教え)を示された。

## 新しい「領解文」(浄土真宗のみ教え)についての消息

本年三月には、「親鸞聖人御誕生八百五十年・立教開宗八百周年法要」という記念すべき、縁を御迎えたいと思います。このたびの法要は、親鸞聖人の立教開宗のご恩に深く感謝し、同じお念仏の道を歩む者同士が、あらためて同信の喜びを分かち合うための法要です。また、これを機縁として、特に若い人やこれまで仏教や浄土真宗に親しみのなかった人など、一人でも多くの方々に浄土真宗との縁を結んでいただきたいと思えます。

伝道教団を標榜する私たちにとって、真実信心を正しく、わかりやすく伝えることが大切であることは申すまでもありませんが、そのためには時代状況や人々の意識に応じた伝道方法を工夫し、伝わるものにしていかねばなりません。このような願いを込め、令和三年・二〇二二年の立教開宗記念法要において、親鸞聖人の生き方に学び、次の世代の方々に、法義がわかりやすく伝わるよう、その肝要を「浄土真宗のみ教え」として示し、ともに唱和していただきたい旨を申し述べました。

浄土真宗では蓮如上人の時代から、自身のご法義の受けとめを表出するために「領解文」が用いられてきました。そこには「信心正因・称名報恩」などご法義の肝要が、当時の一般の人々にも理解できるように簡潔に、また平易な言葉で記されており、領解文の果たす役割は、今日でも決して小さくありません。

しかしながら、時代の推移とともに、「領解文」の理解における平易さという面が、徐々に希薄になってきたことも否めません。したがって、これから先、この「領解文」の精神を受け継ぎつつ、念仏者として領解すべきことを正しく、わかりやすい言葉で表現し、またこれを拝読、唱和することでご法義の肝要が正確に伝わるような、いわゆる現代版の「領解文」というべきものが必要になってきます。そこでこのたび、「浄土真宗のみ教え」に師徳への感謝の念を加え、ここに新しい「領解文」(浄土真宗のみ教え)として示します。

これらとて  
 宗祖親鸞聖人と  
 法灯を伝承された 歴代宗主の  
 尊いお導きに よるものです

「われにまかせよ そのまま救う」の 弥陀のよび声  
 私の煩惱と仏のさとりは 本来、一つゆえ  
 「そのまま救う」が 弥陀のよび声  
 ありがとう といいたい  
 この愚身をまかす このまま  
 救い取られる 自然の浄土  
 仏恩報謝の お念仏

み教えを依りどころに生きる者 となり  
 少しずつ 執われの心を 離れます  
 生かされていることに 感謝して  
 むさほり いかにに 流されず  
 穏やかな顔と 優しい言葉  
 喜びも 悲しみも 分かち合い  
 日々々に 精一杯 つとめます

この新しい「領解文」(浄土真宗のみ教え)を備忘を問  
 わず多くの方々に、さまざまな機会等で拝読、唱和いただき、  
 み教えの肝要が広く、また次の世代に確実に伝わることを  
 切に願っております。

令和五年 一月十六日  
 二〇二三年

興会門主 釋 專如

号外

2023年(令和5年)1月16日 月曜日